

洛友會會報

京都市左京区吉田本町
京都大学工学部
電気工学科教室内
洛友

新会員をお迎えして

洛友会会長 松田長三郎

去る三月、多年の蟹雪の功を積まれて、目出度く、京都大学を卒業になりました新学士の皆様に対して、本会会員一同共に、心から、お目出度うを申し上げます。本会が、皆様をお迎え出来ましたことは、私共の最も光榮とし、慶びとする所であります。何卒、健康に十分御注意下さって、ご活躍下さることをお願いし、期待申し上げます。

□ 世の中は、世界は今、大いに揺れ動いています。激動の中になると云われていますが、この動きの原動力のなるのは、皆さんのような英気に充ちた若い人達であり、社会から、大きな期待が寄せられています。高い理想と大きな希望と期待を以て社会に出られたのであります。実社会の現状は、学窓から眺められていたより、一層厳しいものがあるかも知

れません。生涯は長いのですから、平素の修養琢磨を心掛けて、人生行路を、ゆっくりと急ぎまじよう。私の尊敬していたギリシヤ・ラテン語の大家、故田中秀央京大名誉教授は Festina Lente (フエスティナ・レント) (ゆっくりと急げ) をモットーとしておられました。

□ 現在、世界における経済大国としての日本の立場は、ゆるぎないものとなって来ましたが、世界の期待に応えねばなりません。戦前のことを良く知っている私共にとつては、日本も偉くなったものだと思心するばかりであります。が、これは、頭の良い、しかも勤勉誠実な日本人の成果であつて、^{『Japan as No. 1』}と持ちあげる外人もあります。われわれとしては驕(おご)ることなく、慢心することなく、誠実に謙虚に、国際人

としての役割を果たしたいものです。

□ 母校京都大学では、去る3月23日、昭和58年度の大学院修士課程修了者94名の学位授与式が行われたが、文学研究科69名、教育研究科18名、法学16名、経済13名、理学14名、薬学27名、工学546名、農学11名、合計944名であつた。これを見ても、工学研究科修了者が、断然多数をしめしていることは、工業立国を国是としている我国として、大変心強いことである。

又、翌24日行われた学士試験合格者の所謂卒業式では、文学部199、内女子65、教育学部44(13)、法学部376(18)、経済学部229(6)、理学部283(18)、医学部116(5)、薬学部79(43)、工学部844(10)、農学部262(32)、計2452(210)となつている。ここで女性卒業者は、文学部に最も多く、次いで薬学部となつている。これらの人達は學術・文化の開拓開発の先駆者的役割を果たして下さる方々で、文運盛々拓けて、世界に誇り得る文化国家の将来を支えて下さる荷い手であられる。

尚、京都大学から卒業生総数を見ると次のようで、これを見ても工学部卒業生が群を抜いている。

従来の卒業生総数

文学部	10,282
教育学部	1,426
法学部	24,679
経済学部	14,569
理学部	9,261
医学部	9,064
薬学部	1,644
工学部	30,649
農学部	10,010
医学専門部	804
旧理工科大学	944

113,632

大正十四年卒

橋本真吉氏追悼 十二首

大正十五年卒
日立電線顧問 小宮義和

乾盃の酔ひ治まりて別れしに君入院せりとけふ伝へらる
花匂ふ病室にしばし黙し立つ八十三の誕生日近き君を見舞ひて
混雑する街駆け行けば君すでに病院より運び去られしと告ぐ
衣手ころもの常陸のはてに詰襟の君を見しより六十年を經し
大いなる手術の中に神を見て五十年余り厚き信仰
とつづくに勝る継電器リレーの開発に超高压送電や安定しゆけり
その味は今も忘れずとふ京二条鍵屋に食べしユークリームは
パワーシヨベルのキューバ輸出に続くもの無きを寂しき君は歎けり
モンテビデオに見知らぬ婦人と三度組み汗流したる苦しきダンス
客集つどひフィルムは着かずジャカルタの遅き税関君苛いらだちて待つ
二十三人のうらか集へる新年試筆「三山巨鼈躍 万里大鵬飛」
誠実の一生なりき白ひとしろ一色菊の祭壇讚美歌流るる

(昭和五九年二月九日 永眠後一ヶ月)

の昔ちまへ

昭和59年度洛友会総会通知

- 一、年月日 昭和59年6月9日(土)
新ミヤコホテル(京都駅八条出口前)
- 一、場所
- 一、行事
 - (1) 関西支部総会
 - (2) 本部総会
 - (3) 懇親会

15・00 / 15・30
15・30 / 16・00
16・00 / 18・00

- 一、会費
 - (1) 会費納金 三、〇〇〇円
 - (2) 懇親会 〇円
 - (3) 懇親会 〇円

ただし、昭和五十九年三月卒業業者は無料

会費は、別紙総会用振替用紙にてお払込みください。なお、これ
で総会出席通知に代えますので、ご出席の方は五月二十日までにご
返事をお願いいたします。本会へはご家族同伴を歓迎しますので、
多数お誘い合せの上ご出席ください。

洛友会会費納入のお願いと払 込用振替用紙の変更について

前号で報告されましたように、名簿作成のコンピュータに伴い、
昭和59年度から払込用紙には、所定の事項が自動的に印字されること
になりました。その記載事項並びにその要領は、次のとおりです。

- (1) 従来の一連用紙が四連となり、各片ごととに会員各位の住所・氏名・
会員登録番号・所属支部の略字・会費納入金額と二片には、この他
に前年度及び当年度の二年間の会費納入状況が印字されています。
- (2) 会費納入金額は、各片の金額欄に印字されています。
- (3) 納入状況は、二ケ年間で、前年度(58年)、当年度(59年)が、次
の要領により記載されています。

- (イ) 前年度(58年)納入の場合、「1」、当年度(59年度)未納の
場合は、「3」、〇〇〇円、合計三、〇〇〇円
- (ロ) 前年度(58年)、当年度(59年)とも未納の場合は、58年二、三
〇〇円、59年三、〇〇〇円、合計五、三〇〇円
- (ハ) 前年度(58年)、当年度(59年)とも納入の場合は、用紙は封入
されておられません。

(4) 振替用紙払込通知票の裏面は、会員調査票になっていきますので、住
所・勤務先などに変更のあった場合にのみ、ご記入ください。コン
ピュータには、記入のとおり入力されます。

以上の要領で会費納入金額が記載されておりますので、早い目にお
払込み願います。
会費は、本会存続の鍵ですから納入率向上のため、各位のご協力を
切にお願い申し上げます。

講習所卒業の皆さまへ

陽春の光もさわやかな好季節となりました。同窓の皆様卒業
以来六十九年から四十四年の春を迎えましたが、お元気で過ご
しのことでしょうか。皆様のご身辺にもいろいろのことがおあ
りのことと思いますので、その後の報告なども兼ねて思い出の
京都で、洛友デルタ会全国大会を開催し記念講演会と懇親会と
を催しますので、ご出席ください、ますようお願い申し上げます。
なお、ご出席の方は左記神戸俊夫幹事長代行までお申込
みください、ますようお願いいたします。

記

一、日時 昭和五十九年九月十五日(土) 午後一時

一、集合場所 近畿地方京都発明センタ(詳細は別に連絡し
ます)

一、記念講演 京都大学名誉教授 近藤文治先生

一、懇親会場 京都市中京区河原町竹屋町東入「石長」

一、懇親会 同日午後六時より

一、会費 懇親会のみ 金一〇、〇〇〇円

一、申込期日 昭和五十九年五月三十一日まで

一、申込先 京都市左京区上高野隣好町一ノ六 神戸俊夫

一、電話 〇七五―七九一―五六六七 眞古丸

一、振替口座 京都一三―三九八五

故岡本正彦氏を悼む

昭和十六年三月卒 武田 進

昭和五十八年も終り近く十二月二十一日の夜、岡本正彦氏の奥様より電話の訃報に接し誠に暗澹たる気持で一杯です。

でありましたが、陸軍より派遣されて来られ私よりは少し年上でした。彼は軍服姿で目立って居り、電気教室の近くで見かけたので私の方から声をかけたのが最初であったと思います。

アパートの食堂で何度も食事を共にして話題となったのは学校の授業の事であった様です。誰先生の講義は難解だがノートを取り易いとか、内容が豊富だとか話され、さすが軍人だけあって使命感が感ぜられました。其の後私が病氣休学で一年遅れて卒業したため同期生となったわけです。しかし私の下宿も変り、洛東アパートでの交際以外はあまり記憶に残ることはありません。

戦争も終り、私が理化学研究所から横浜高工の教官として務め始めてから間もなく、突然学校へ訪ねて来られました。戦争中は陸軍技術将校として活躍、電波兵器の改良で賞を受けられた事を新聞で見たり其の後の消息はありませんでした。それで大いに驚きお互いに近況を話し合いました。

彼は戦後、元軍人では職を探すのに困り、医者になる決心をして横浜医専の学生になったとの話、船のエンジンに関する改良で特許をとったり、そのロヤリテイの様なものを生活費としていたとの事、早くも多才ぶりを發揮して居られま

した。横浜市内に居られるといわれるので其れから何度かおとずれは学生時代の話をしたり、こちらの学校の話をしたりしました。医専卒業後はすぐ開業してもすぐ患者が多く来るわけでないとか云って、船のパイロットといつても船が港に入る時、船長に代つて水先案内をする職業の人のクラブと連絡をつけ家庭訪問医療の様なことを始められました。これは會員制で毎月一回家庭を訪ねて家族の健康診断や相談をするという制度でした。さすがアイデアマンで普通の医者とは考える事が違つて感心しました。その自宅でも看板をあげ次第に普通の診療も軌道に乗つて行つた様です。その頃奥様の実家の空地に木材を買つて来て自分で組立て居間の一部屋と診察室のある自宅を建てるといった器用さにも感心しました。

又別の頭角を表わし始めたのもそれからしばらくしてからのことですが、医者だけでは満足せず、陸軍時代の研究、今のミサイルの勉強をつづけ、防衛庁の囑託となり、奥様の話では二足のわらじをはいて居られました。私が学位を取つた話をしたら刺戟されたとか云って、御自身の研究をまとめられ、加藤先生の所で工学博士の学位を取られました。全く驚歎する活躍でした。医学博士は必要な

い、ドクタ岡本で充分と笑つて居られました。其の三菱電機会社とも関係をもたれ、顧問役となり、医者と合せて一人三役でした。私達夫婦も時には健康上の相談に乗つて頂いたりして家同志の交際でした。私の外国出張中の三年間を除いてずっと後まで親交は続いて居ります。

私は帰国後名古屋大学に赴任する様になりましたが、東京出張の時は度々今の馬事公園のマンションをお訪ねしました。又彼も一年に一度は御両親の墓参とかで名古屋方面に来られると私の宅に寄られたりしました。

其の後東京在住の私の父の手術、入院で亡くなるまでお世話になりました。最近といつても五年前、私の弟が胃の手術をした時も終始立ち合つて頂く等大変お世話になりました。いつも私の母の様子等も聞いて下さいました。母も最後は岡本先生のお世話になると私達一同は思つて居りましたが、彼の御逝去の三週間前に九十才の天寿を全うしました。

思えば私の一生で一番長い親友の一人で彼の多方面の活躍から来る人生観など感銘を受けた事も多く、友であり師でもありました。九月から入院中と後で奥様から伺い、一度も病院へお見舞に伺うことが出来なかつたのは返すがえすも残念です。

西安、シルクロードの旅 ①

昭和7年 鈴木 茂

奥様は苦難の時代から、一途に彼の助手役として内助の功を尽され、一度も看護婦や事務員の姿を見たことはありませんでした。又二人の令嬢は小さい頃から存じて居りますが、今では二人とも女医さんとして医者のお嬢様として御活躍中で立派に彼の遺志をつが

れて居られます。彼は、エンジニヤールとして医者として、献身的に二人分の仕事をされたのは敬服の至りで、充分体力に自信もあつたのに、こんなに早く幽明境を異にせねばならぬとは……。

中に宮殿、市街があつた。十世紀の初め唐は滅亡するが、その直前権臣により洛陽へ都は移される。長安に未練が残らぬ様に宮殿、官庁、民家はこわされ、その材木は役に組んで渭水に浮べ運び去られ、以後は丘墟と化した。現在の西安は、明代に再建されたもので規模は唐代の塊に過ぎない。

毎日旅行会が募集した表記ツアーに吾々夫婦も参加した。八月三日から十四日までの十二日間旅行で、同行者は若い未婚のOL六人、既婚の中老年婦人三人と吾々及び若い男子添乗員氏の十二人で構成される。それにしても御婦人の間にシルクロード熱の高いことに驚かされた。

西安に向う。双発ターボプロップのトライデント機は二時間後西安空港に到着したが、機内は日本人と欧米人の観光客で満席の盛況であつた。中国旅行社の若い女子ガイドに迎えられた。彼女は高校卒業一ケ年間日本語を学習してガイドになつた由であるが少々覚束ない話振りであつた。

先づ大慈恩寺へ行く。有名な玄奘三蔵が唐の太宗の勅命により仏典を漢訳した寺である。高さ六四mの大雁塔が聳える。正方形断面、煉瓦造りの七層塔で一三〇〇年間度々の地震にも耐え抜いて今日に残つた。塔上からは西安市街が眼下に見下ろされた。則天武后が立てた小雁塔と共に数少ない長安遺蹟の一つである。午後には秦陵を見る。始皇帝を葬つた秦陵は洛陽へ通ずる公路を約四〇km東方に在る。

8月3日 中国民航機で午後成田を立ち上海で一泊した。折柄内地は炎暑がきびしかつたが、上海の暑さは一段ときびしいものであつた。今回の旅行は終始暑さに苦しむ羽目になつた。

西安は長安の後身である。紀元前十一世紀の古代王朝から、秦、漢、隋、唐等の十一王朝の首都となり中原に君臨した地である。長安京は我朝の平城京、平安京のモデルになつたことは公知の通りである。又シルクロードの東の玄関口でもあつた。

東西一〇km、南北九・五kmのはぼ正方形の城壁が設けられ、その

宝は全部此処に運ばれ埋葬されたが、帝国は数年後項羽に亡ぼされ陵は発かれ財宝は略奪された。

この辺は南北に山脈が連なり中間の平野を渭水が東流する、所謂関中平原である。陵丘はザクロの果樹園になっていた。丘上からは関中平原が見下ろされた。

秦陵を再び世人の注目を浴びさせたのは兵馬俑坑の発見で、陵から更に一・五km東にあった。

一九七四年、農民が井戸堀作業中偶然発見した兵馬俑坑は間口七〇m、奥行二三〇mの建物に覆われ兵馬俑坑博物館となっている。

発掘のすんだのは、身長一・八mの武士俑三列で七〇×三〇二一〇体と、その後に従う歩兵と馬に曳かれる戦車の縦隊数列の先頭の一部である。現在も発掘作業は続けられ屋根の下には約六、〇〇〇体が在ると推定される。全部が発掘されるには恐らく今世紀一杯はかかる事であろう。

この外にも第二、第三坑が発見されているが、再び埋め戻された由である。到底手が届かぬためであらう。

別館には出土した佩劍類や資料が展示される。博物館の進入路の両側や秦陵の前には多数の露店が並び備のミニチュアやその他の土産物を売る。帰途につき、途中華清池に立寄

る。唐の玄宗皇帝が清華宮をたて楊貴妃と遊んだ温泉として有名である。白楽天の長恨歌に「春寒くして浴を賜う華清の池、温泉水滑かにして凝脂を洗う」と詠まれたのが命名の由来である。

門を入れれば池があった。山を背に緑の木立が葉を繁らせ極彩色の中国風の楼閣が周囲を囲む。多数の市民が行楽を娛しむ姿が見られた。

温泉が湧き入湯の設備も整っている。二人池とあるのはアベック用であろう。過客の吾々には一浴する時間の余裕はない。

楊貴妃が用いた浴室が残っており、内部には大理石の大きな浴槽があった。屋上のバルコニーは彼女が浴後の涼をとり、緑の黒髪を風になびかせた所であるという。

華清池は一九三六年張学良が蒋介石を軟禁して第二次国共合作を実現させた舞台でもある。その建物は貴妃浴室の隣りの台地で蔭が泊った寝室が当時の姿で保存されていた。硝子窓には弾痕が生々しく残り、庭前に茂る合歡の老木は花を開き、当時の模様を物語りにげに見えた。

宿舎の西安賓館は市街の尽きる所に在った。大地主の旧宅を没収したものらしく、純中国式のそり屋根の端には伝統の動物が数個並び、さながら龍宮城にでも泊っ

た感じがした。部屋の内部は洋式ホテル風に改造はされていたが、夜半以後は電気も水道も止る。冷房は利かず寝苦しい一夜を過した。西安は海拔七〇〇mであるので、初秋の気候を予期して旅立ったが予想はかりと外れた。炎暑は旅行中続き苦しい旅をつづける羽目になった。

8月5日

西安から西へ向う公路は昔のシルクロードで、乾陵は西方約九〇kmの地にある。西の城門から続く市街は秦の阿房宮がおかれた咸陽である。市街を抜けると関中平原へ出る。平和な農村の風景が展開する。

赤褐色の濁水が流れる河を渡る。渭水である河幅は四〜五〇〇mはあるか？渭水の水量は多くはないが東流して末は黄河と合流する。道は間もなく二つに別れ、西にのびるのがシルクロードで、南へ向う道は秦嶺をこえて四川省へ通ずる。

分岐点附近から北部は丘陵地になり、漢や唐代の陵墓が数多くあるがこれらの大部分は盗掘されている。唯一つ墓泥棒の手に負えなかつたのが乾陵で、丘陵地帯の西北端に近い梁山にあった。

(以下次号へ)

(注) 紙面の都合で紀行文の途中で、次号掲載になりましたことをお詫び致します。

清野武先生

古稀記念画展について

名誉教授 清野 武先生(昭和十二年卒)は、本年古稀を迎えになります。

清野先生は、十年来絵画に親しまれ、すでに五回の個展を開催してこられました。今回の画展では昭和五十四年第一回個展以来先生の発表されました草や木の墨彩画百余点が一堂に展示されます。画展の開催される期間及び会場は左記の通りです。で、絵画に関心をお持ちの方は是非ご来場下さい。

記

期 間 昭和五十九年五月三日(木)〜五月六日(日)

会 場 思文閣会館(百万辺西入南側)

なお、画展初日に画展を記念するパーティーも開かれます。この件につきましてご関心のむきは、左記宛ハガキでお問合わせ下さるようお願い申し上げます。

京都市左京区吉田本町

京都大学情報処理教育センター 気付

清野 武先生古稀記念画展準備会

代表 大野 豊

電話(〇七五) 七五一八八五一

卒業四十五周年クラス会(昭和十三年卒)

『新潟、佐渡観光の旅』(つづき)

五月二十九日(日) 晴

今日も空は快晴。迎へのバスに乗り込みに、八幡館玄関前で三々五々撮影。美しいバスガイドさんが人気の的だ。

午前八時五十分両津港着。九時二十分、カーフェリー「おとめ丸」に乗船。四千トンの巨体が静かに岩壁を離れる。昨日一日、佐渡の旅を愉しく、心からガイドし

てくれた、新潟観光ナンパーワンの宇治運転手さん、ガイド嬢の佐久間初恵さん、ありがとう、さようなら。

青い空に真白な雲が美しく棚引いていた。船は今日も波静かな紺碧の日本海を滑るように進む。昨日我々を乗せたジェットホイールが、白波をけ立てて猛スピードで追い抜いて行った。一同上甲板に出て、去り行く、楽しかった思い出の美しい佐渡の山々に別れを惜しんだ。

特等船室に到着してから、ラウンジに集り、学生時代のこと、過ぎ来し永い年月に亘る物語、家族の近況など、落着いた、なごやかな時間を持てたのは嬉しかった。

私は独り甲板に出、去年、急に私をおいて逝ってしまった妻のことを思い、このクラス会と一緒に連れて来れなかったことを惜しみ胸がつまった。

船は約二時間半の航海を終え、午前十一時五十分、新潟港に着いた。新潟電子計算機専門学校の内田校長と梅津事務長が出迎えてくれ「みなさん、すっかり若返って帰って来られましたね」と言われ互いに顔を見合せ、健康を喜び合った。特にご夫人の方は十才は若返ったようだ。

迎えのバスで、皆川市長招待による、新潟県下越一流の料亭「行

形亭」(いきなりや)に案内された。四十五周年記念会のフィナーレに相応しい場所での昼食である。支関に入り、手入れの行届いた庭園で、先ずヒンヤリした流しソーマンの接待を受ける。ここから石段を登って、美しい庭園を見下せる、離れの日本座敷に通された。この女将は、皆川市長とは加茂市の小学校同級生以来の永いおつき合いのある方で、松尾氏、稲井氏も晶貞にして来た縁の深い料亭で、女将は特に最高のサービスを心がけてくれた。皆川市長から、連日快晴に恵まれ、誠に愉しかった四十五周年クラスを喜び合う挨拶に続いて一同の益々の健康を祈る乾杯に宴に入る。

皆川市長から、加茂市の花「雪椿」の苗木がみやげとして贈られ、二年後の四十七周年クラス会で、成育の花を競う約束をした。松尾氏から記念として、シチズン時計(特注したという、美しいデザインの時計が贈られ、一同感激を新たにした。

最後に、大谷先生が代表して、四十五周年クラス会が、盛大に、愉しく、有意義に終わったことを称え、松尾氏、皆川氏からの数々の支援に深く感謝の念を表明、両氏に対し盛大なる拍手を送った。

お互いに、元氣な再会を誓い合って散会とした。

このクラス会の計画から実施に至るまで、絶大なるご支援を頂いた、新潟電子計算機専門学校の内田校長、梅津事務長に、クラスを代表して、深甚なる謝意を呈しませう。(伊藤記)

去る九月と十月、東京と大阪において、夫々クラス会を開催、片岡氏制作のビデオテープの試写会と松尾氏が丹念に録音されたテープレコーダが披露され、愉しかった思い出の再現と感動す。この記念の記録を制作してくれた両氏に感謝した。

インドネシアで

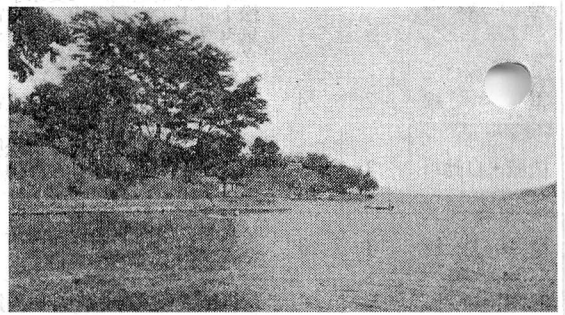
思うこと

昭二四卒 門脇 誉雄

教室、洛友会とは大変ごぶさたしております。本年七月十四日よりインドネシアに来ております。

アセアンプロジェクト(インドネシアと日本の国際協力)によるアルミニウム製錬の一翼として、山奥に六〇三MWの発電所が建設され、それにかかわる設備等の運営に当たっている次第です。

メダンから二三〇km、車で四・五時間。来る途中トバ湖畔パラバットを通ることになります(写真はトバ湖)。従って何かにつけて、



日本、インドネシア両方から来客

が千客万来の形でやってまいりますので、その応待が主となり勝ちですが、技術伝達の方を本命として進めねばなりませんので、仲々頭のいたいところです。ここでは強力な電力源は自社のみ、他に頼れるところはありません。私は電力応用、自発火力、水力発電ときて、この水系をあづかる事になり、電気屋としては多方面にきましたので、何かと経験を生かしてやっていくつもりです。しかしこの年で一番困るのは語学の問題であります。若い人には読み、書きのみでなく話し方について準備される事をおすすめる次第です。

電気系教室だより

近藤文治・池上淳一両教授

退官記念講演会

去る三月十日(土)午後一時より近藤文治・池上淳一両教授の退官記念講演が行われた。当日、小雨が降っていたが、二百名以上の聴衆が集り、電気総合館の大講義室は満員の盛況であった。

本年度の主任、西川禰一教授の司会により、まず高木俊宜実行委員長から、先輩の諸先生による電子工学科創設などの先見の明を讃

える挨拶があった。つづいて、池上文夫副実行委員長による近藤教授のご略歴紹介の後、同教授の退官記念講演が一時間余りあった。同教授は、室内台風など少年時代の思い出から始め、講師に任官されて以来の電気系教室の発展ぶりや大学の様子などを回想された。特に大学紛争、電気系教室改組、研究施設のセン

タへの昇格、イオン工学実験施設
の設置などのお話には、電気系教
室の教授として、また学生部員・
評議員・工學部長としての当時の
ご苦労がしのべられた。先生の専門
分野のご研究についても要点を概
観され、自動制御関係の学・協会
設立や、国際自動制御連盟（I F
A C）の世界会議開催などにつ
いても言及された。最後に後進への
言葉として、研究者の社会に対す
る責務、産学協同における民主・
自主・公開の原則、及びオートメ
ーションにおけるヒューマンファ
クターについてお話しなられた。
約十分の休憩の後、高木実行委
員長より、池上淳一教授と同じく
故加藤信義教授研究室出身であ
り、ご略歴紹介の後、同教授の退
官記念講演があつた。同教授は戦
争中、赤外線標定など故加藤教授
の下でなされた諸研究を懐しく回
想された。講座を担当されるに及
んで、原子時計に関連したものと
しての周波数通信をはじめ、発振
器の同期現象、パラメトリック増
幅器、マイクロ波半導体能動素子
とその回路に関する諸研究、レ
ーザー共振器や雑音に関する理
論的研究、磁性体中の静磁波など
に関する研究、光通信などにおけ
る光集積回路の理論的・実験的研
究など広範囲の研究成果について

語られた。そして、大学研究のあ
り方についてプロジェクト研究か
各個研究かの私見をのべて締め括
られた。

最後に両教授の秘書、北尾さ
ん、磯保さんから両教授への花束

昭和58年度

卒業生の就職・進学状況

電気工学教室 主任 西川 禎一（昭30卒）
電子工学教室 主任 高木 俊宜（昭22卒）
電気工学第二教室 主任 松波 弘之（昭37卒）

電気系教室の昭和58年度卒業生
の就職ならびに進学の状況につ
いてご報告致します。

最近ではエレクトロニクス化の時
代、情報化の時代、また先端技術
の時代など、いわれられております
が、電気系教室はその渦の中、少
なくともその一つの中心にあると
いえましょう。産業界からの新卒
生採用にもそのことははっきりと
現われておりまして、本年度も広
汎な産業界から極めて多数（八
百社余り）のご求人を見ました。
従いまして、学部及び修士課
程卒業の就職希望者は、ほとんど
が十一月初旬までに円滑に就職先
が決定致しました。その結果を別
表にまとめました。

最近の傾向と致しまして、学部

の贈呈があつて会は閉じられた。
なお、両教授の退官記念パーテ
ィは来る五月二十日（日）正午よ
り京都ホテルで開催される。
昭和35年卒 中島 将光
昭和41年卒 荒木 光彦

種別	学部	修士	先 職
官 公 庁	2	3	郵政省、三重県、京都市、大阪工業試験所
電 力	3	7	関西電力、中部電力、四国電力、北陸電力、東北電力
ガ ス	1	0	大阪ガス
通 信・放 送	2	5	電々公社、国際電々、NHK、中日TV
電 気・電 子 機 器	23	37	三菱電機、東芝、日立、松下電器、日本電気、富士通、ソニー、原研、日立、三菱、安川電機、三菱、東京エレクトロニクス、松下電器、松下電器、松下電器
電 線	2	4	住友電工、古河電工、日立電線
機 械・自 動 車	3	5	三菱重工、住友重機、小松製作所、松下冷機、トヨタ自動車、東洋工業、三菱自動車
精 密 機 械	3	3	YHP、横河北辰、諏訪精工、キャノン
鉄 鋼・金 属	0	4	新日鐵、住友金属、神戸製鋼
化 学・薬 品	1	3	東レ、三菱化成、クラレ、サントリ
電 鉄	0	1	阪急
その他の会社	1	1	三菱商事、住友商事
小 計	41	73	
進 学	68	8	
そ の 他	0	2	
計	109	83	

卒業生の中では修士課程進学希望
者が増加しており、本年度も六八
名が進学し、四一名が就職という
結果になりました。つまり、六〇
%強が修士課程へ進学するわけ
この傾向は将来とも変わらないで
うと思われまます。一方、求人側も
修士卒業生に対する意欲が旺盛で
技術の進歩に伴って高度な教育を
受けた者が要望されている実情を
反映しているといえます。教
室においても、将来ますます大学
院教育の拡充をはかるべきである
と考えております。博士課程を終
えた学生五名につきましても、大
学あるいは産業界にそれぞれ就職
が決定致しました。

教室主任と致しましては、人材
の需給事情が極めてアンバランス
であることを念頭において、でき
る限り多方面かつ多数の求人先
にご要望にお応えすべく努力致しま
した。しかしなおかつご期待に副
えなかつた向きも多々ありまして
誠に申し訳なく存じております。ま
た、毎年のことながら洛友会の諸
先輩には何かとご高配、ご援助を
賜りました。心より厚くお礼申し
上げます。

以上のように、教室の卒業生諸
君は就職に関する限り、現在のと
ころ甚だ恵まれた、ある意味では
恵まれ過ぎた状況にあります。大

変有難いことと感謝しておりますが、一面ではこれらの諸君が変遷と進歩の激しい将来の技術社会で全員立派に成長してくれるかどうか、一洙の不安を抱くこともありま。若い諸君が自信を失うことなく、常に精進と自己啓発を重ねていくように、諸先輩の厳しくまた暖いご指導、ご鞭撻をひとえにお願い申し上げる次第であります。

教官の異動

前号のお知らせ以降、次のような異動がありました。

- 石川 本雄 昭和59年2月1日、電気工学教室(卯本研)助手より助教に昇任
- (昭和46年電気工学科卒)
- 近藤 文治 昭和59年4月1日、電気工学第二教室教授を定年退官、名誉教授
- (昭和18年電気工学科卒)

- 池上 淳一 昭和59年4月1日、電子工学教室教授を定年退官、名誉教授
- (昭和18年電気工学科卒)

- 松原 覚衛 昭和59年4月1日、電子工学教室(高木)

研)助教より山口大 部教授に昇任 (昭和30年福井大電気工学科卒)

大嶋 健司 昭和59年4月1日、一般電気工学講座(安陪研) 助手より埼玉大工学部助教に昇任

(昭和38年電気工学科卒)

その他、電子工学教室事務官の岡森とみさんが本年4月1日付で退職されました。

学生ニュース

一、去る三月十九日、昭和五十九年度の入学試験合格発表が行われ、当電気系教室にも新しく百二十名の新一回生を迎えることになりました。この中には二名の女子学生が含まれており、新三回生の一名、新四回生の一名に加えて計四名の女子学生が在籍することになります。

二、既に新聞・テレビなどの報道でご存じのとおり、京都大学アメリカンフットボール部は昨年11月20日に関西リーグの雄関西学院大学に30対28で勝ってリーグ優勝し、12月11日の甲子園ボウルでは宿敵日本大学を30対14で一蹴して、遂に念願の学生日本一の座に就きました。さらに、本年1月3

日に東京国立競技場で行われたライズボウルでも実業団ナンバーワンのレナウンチームを19-28で下して、初の日本選手権を獲得致しました。京大スポーツの日本一は昭和9年のラグビー全国優勝以来まさに50年ぶりのことで、その快挙に学内は大いにわきましたし、また多くの京大卒業生の方々からも喜びの言葉をお聞きしました。

ところで、先日の祝賀会で来シーズンのメンバーが披露されましたが、新しく主将に選ばれたのは電気系4回生の竹野耕一君でありました。日本一の後、新チームのまとめ役はなかなか苦勞も多いことでしょうが、いがぐり頭のびりつとした大男、竹野君なら精一杯やってくれるだろうと思います。洛友会の諸兄もひとつ大きな拍手で、彼と新チームの活躍を応援してやって下さるようお願い致します。(電気・西川禪一記)

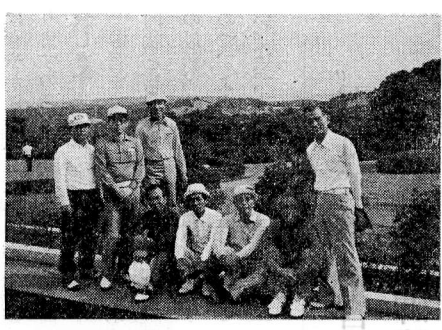
同窓会便り

中部支部
ゴルフコンペ
(58年10月23日)

鳥羽カントリークラブ8時スタートに、全員6時起床、昨夜の月見が雲で見えなかったのに、今朝

は皮肉にも、青白い満月が雲間に
出、冷身にしむ。絶好のゴルフ日和になった。大学から岡田・西川両先生を迎え、中部勢が僅か6名、特に殆ど毎年参加されていた大15・田中卓次先輩の顔が見えないのが淋しい。代りに『コースは始めて』というS42・林靖人氏のピンチヒッターとなった。

このコースは、伊勢志摩国立公園・的矢湾の絶景を望む海浜コースだが、リヤス式海岸のアンジェレーションが巧みに活かされた難?コース、初参加の西川先生、ベテランS28北岡隆氏は残念ながら実力を発揮できず仕舞い。コースは始めての林氏が16番谷越え(一二〇米)をクリヤーするなどなかなかの奮戦。結果は昨年の優勝者岡田先生の連続制覇はまず順当。2、3位はS26石川、S16秋田の



常連組となった。スコアは二の次、秋空のものと的矢湾の絶景を愛で、的矢がきに舌づつみを打ち和気あいあいのうちに来年の再会を約した。『中部支部のゴルフ会は雨に祟られる』というジンクスも解けました。来年はもつと多数の人がこの難コースに挑戦されるようお待ちしております。(手記・石川)

- 本年の参加者は次の8名で少し淋しかった。
- 秋田清四郎(昭16)
- 石川 進(昭26)
- 前原 恒之(昭28)
- 北岡 隆(昭28)
- 西川 禪一(昭30)
- 岡田 隆夫(昭30)
- 野坂 泰彦(昭30)
- 林 靖人(昭42)

二九日会例会

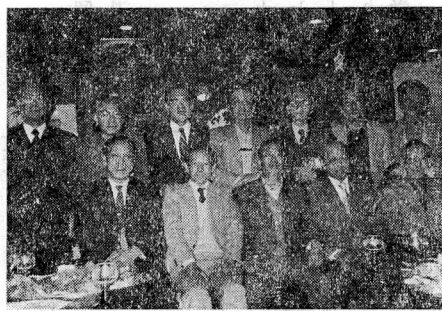
昭和二九年卒業の関西在住同窓生の有志は二九にあやかって、毎月二九日の午後六時以降、大阪の中央電気クラブの二階のバーに集まっている。たゞし二九日が土・日・祝日にあたる場合は休みで、本年も暦を見るとほど良い休みがある。誰がいゝ出したということもなく集まり始めて、かなりの回数を重ねているが、今では楽しみ一つ。まさににくまれっ子の集まり二九日会である。

会社の帰りがけ、特段の用が無ければ電気クラブに立寄るといった具合で、随分と遅れて来る常連もいる。お互に打ちくつろいだ談笑は、翌日からの活力ともなっている。関西在住以外のお方も、出張などでご来阪の節は是非気軽に立寄り下さい。なおこの二九日会では、ユニークな催しを計画し実行している、その模様を紹介する。

その一、ワイン・パーティー
寒さもひとしお身にしみる昭和五八年十二月十八日(日)。時あたかも衆議員総選挙の日であったが、投票を済ませた午後三時、神戸三宮のワインの店、ラ・カーブに元気の良い顔ぶれが集まった。大学を二九年に卒業して二九年目という有意義な年の締めくくりにして、関西在住の有志により、ワインで二九周年の忘年会を開催したのである。エキゾチックな部屋で色とりどりの料理に舌づつみを打ち、グラスのワインを飲み干しながら、過ぎゆく年を忘れてにぎやかに談笑した。ワインは口あたりが良く飲みやすいものだが、それでもワインの銘柄の飲む順序によってたくさん飲めるかどうかの秘けつがあり、店のマスターがそのあたりを心得て、世界の有名なワインの銘柄を選定し、新しいグラスに、次々とそそぎ入れてくれ

た。飲む程に酔う程に、もう孫は出来たのから始まって、卒業三十周年のクラス会の計画が話題になった。三十周年の大きな節目として、やはりひと味違った楽しい会合の要望が高く、長谷川兄、梁山兄には格別のお世話をお願いすることになった。

再会を約して別れを告げた時は、予定のワインはすっかり空ビンになっていた。



その二、ゴルフ研修会

昨年の同窓会記事で紹介のあった二九年東西対抗ゴルフ大会に続いて、四月八日(日)、賢島カンツリークラブで有志により懇親ゴルフ研修会を行う。井上和夫兄のお世話によるものだが、四月からはゴルフールの一部が改正されることだし、良いとあって腕を磨くには時機を得た研修会で

はある。この稿が記事になる頃には、さぞ珍プレー続出のスコアが生まれていることだろう。

中
山
下
義
雄
記
昭48年卒同窓会記

私達、昭和48年卒業組は、昭和58年12月3日〜4日に卒業後初めての同期会を熱海にて実施致しました。出席者は目標40名のところ、最終的に23名に留まりましたが、大宴会のちマーシャンと酒宴が深夜まで続き、旧交を暖めながら各人の現在の仕事と私生活についてのつづこんだ情報交換(?)を行い、誠に意義深い同期会となりましたことを報告致します。

次回は、京都での開催を予定しており、その時には先生方にも御出席頂いて、更に出席者を増やして



にぎやかな会にしたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願ひ致します。

参考までに、今回の同期会の案内状と集合写真、それに現時点での最新名簿のコピー同封致しますので、よろしくお取り計らい下さい。なお、今回の幹事は京都大学工

“電気工学講習所跡
記念碑建立について”

講昭14卒 神戸 日 俊 夫

望は、会員であれば口には出さなくても心の中に持ち続けておられたことと思う。

このことが京都在住の幹事を主体として他の会員の一部から意見が出初めたのは、ここ数年のことであった。

しかし記念碑を建立する敷地が京都大学の官有地であること、情報工学科が電気系教室から分離独立した教室となったことなどが建立許可の条件をますます困難なものとしていった。

しかしながら我々の悲願を何とか達成するために洛友会常任幹事でもあり、洛友デルタ会に對し常々、いろいろとご援助、ご理解を戴いている近藤教授に記念碑建立の可否について先生のご意見を伺うとともに、建立許可のお願いを

この思い出の地に「ここに電気工学講習所が存在した」という何らかの記念碑を建てたいという願

学部情報工学科矢島研助手の平石裕美氏にお願いすることになっておりますので、御質問等ありましたらそちらにお問い合わせ下さい。

第1回同期会幹事 安田 豊 記
蓮池和夫

(注)案内状は紙面の都合上割愛しました。

することになった。

その結果10月19日先生から次のような連絡があった。

「11月17日記念碑建立の条件について情報工學教室の矢島主任教授をお伺いするように」これこそ我々が待望していた建立許可の第一報であった。

当日竹村先輩と同行して矢島教授室を訪問し先生に今回の建立に対してのご尽力とご協力についてお礼を心から申し述べる。

建立許可についての条件は、
(1) 建立位置は、教室正面西端の一隅とする。

(2) 地上露呈部分は、高さ50cm以内とする。

(3) 建立期限は、三月末日までとする。

以上の三条件が主なるものであった。

これらの条件を検討するため、二月十三日の京洛在住幹事会に諮ることになった。

この日の幹事会における前述三条件について討議の結果は、次のとおりである。

(1) 記念碑の大きさは、地上50cm 一辺15cmの角柱磨石材とする。

(2) 角柱に記載する文字は、
(イ) 電気工學講習所跡
(ロ) 青柳先生筆の「三美具」

(注一)

(イ) 建立年月日とする。

なお、電気講習所跡の文字は、森芳郎先輩に依頼する。

(3) 記念碑の作成については神戸会長代行に依頼する。

(4) 建立に要する費用は、洛友デルタ会基金より醸出する。

(5) 矢島教授との連絡は、竹村先輩に依頼する。

以上の決定に基き建立に必要な行動を開始する。

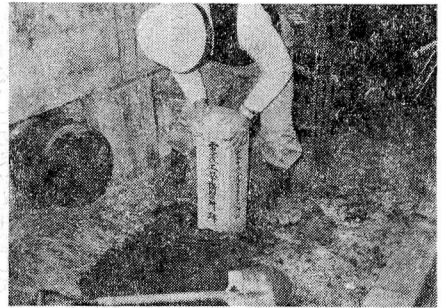
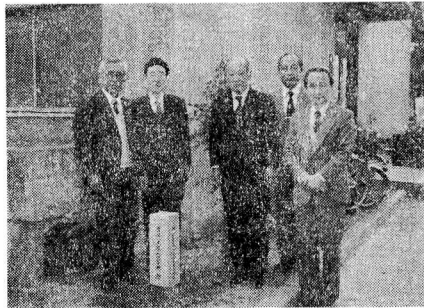
(注一) 「三美具」の由来については、洛友会会報七月号に掲載させていただくこととする。

石材店と記念碑完成と建立日とを打合せの結果、三月二十六日午前十時と決定し、この旨近藤、矢島両教授に連絡し、何れも当日OKの了解を得る。

三月二十六日には、教室側から近藤、矢島両教授と洛友デルタ会からは、立石代表、森芳郎、竹村神戸の四氏が建立に立会うこととなったが、立石代表は所用のため欠席となったのは残念であった。建立当日の様子は、掲載の写真をご参照ください。

今回の記念碑建立によって、我々洛友デルタ会員が胸にいだき続けてきた悲願をやっと達成することができた。

これも会員各位の燃えるような熱情が、近藤、矢島両教授に受け入れられた結果であり、両教授のご



厚情とご尽力に対し心からの感謝とお礼を申し上げて、報告を終ることとします。

なお、九月に開催されるデルタ会総会にご出席の際、時間に都合がつけられる方は、是非京都大学へお出掛けの上、記念碑と共に懐かしいヒマラヤ杉もご覧くださいようお願い致します。

事務局便り

名簿コンピュータ化

こぼれ話「あれこれ」

講昭和十三年卒

竹村 清

洛友会創立三十周年記念事業中の最大の計画でありました会員名簿作成のコンピュータ化という困難な作業を約十ヶ月にわたって進めてきました。この陰には企画立案から印刷・製本・発送という最終過程を経るまでに、それぞれの過程の担当者のご苦勞があったことは今更申し上げるまでもありません。

前号で本計画の企画立案等の経過につきましては、ご担当の先生からのご報告がありました。これらの計画案を実施に移行した場合はいろいろな失敗、苦勞などの裏話を思い付いたまま、紙面を借りまして書きとめておくのも何かの参考になれば幸いと思ひ、数回に分けて堅苦しい文章ではなくコミック風な形式で秃筆をとることにしました。

○月○日 晴 気温32℃
異状乾燥注意報をテレビが報じている。こんな日でも教室の研究室では冷房が効いているのでありがたい。

会員の皆さんから送られてくる調査票の整理は数が多いので大変だ。特に休日明けの月曜日には、びっくりする程配達される。これを整理するのにか少し気を引き締め、これが名簿コンピュータの一里塚と思ひ整理にかかると。

「十人十色」とは良くいったものだと書かれている字体を見ながらその人の人柄を想像しながら整理を進める。

○月○日 晴 35℃
今日も快晴であるが連日の真夏日で、こんな日の教室はありがた

い。
今日から会員マスター原票の校正は、大分作業に慣れてきた女子にまかせて、事業所登録マスター原票の作成にかかると。

事業所マスターというのは、登録される学校・官庁・会社とこれらに付属する研究所・事業所などの名称・所在地・電話番号と登録番号をつけこれらを記載することである。

なんだこれ位のことであれば大した手間とハの掛かるものではない、決められたフォーマットに従って書いて行くだけの作業ではないかとお考えになる方が大多数ではないか(実は小生も最初はそう思ってたかをくくっていた一人ですが……)と思ひますが、さて作業となると想像以上に大変である

ことが判ってくる。

まず登録する学校・官庁・会社の基準をどこまでにするか、会員在籍数を二人以上にするか、三人以上にするか。(これは編集委員の諸先生の話し合いで一応三人と決められていました。) 何しろ会社にしても数百社からの選択であり、三人以上としても数千人の卒業生から三人以上の在籍者を洩れなく登録するのは大変な作業である。しかも前回名簿作成時には、二人以上在籍者の会社などを登録したはずであったが、該当する人員が在籍する会社であるのに登録記載されていないのはどうゆう理由かと、当時の編集委員であったK教授に文句(?)をいってこられた大先輩がおられたので、今回はそのようなことが無いようにしてほしい、と最初に注意されていたのである。

これらの団体の登録番号の基本(これも前出の委員会ではほぼ決定していました)から頭にたき込んで各団体の登録にかかると、まず調査の基本としての参考書には、学校関係は文部省職員録、官庁関係は内閣印刷局発行の職員録、会社関係は旧名簿を参考にし、最新版のリクリート機関の発行した就職情報誌(これはさすが京都大学だけあって、各種の資料が会社情報誌と共に教室にありまし

た)によることとする。最初にビツクリさせられたことは、国鉄、電電公社の組織の複雑なこと、どのような方法、分類で登録基本番号・枝番号を付ければよいかと悩まされる。

朝からどんよりとした空模様で蒸し暑い。今日は会員マスター原簿が印字され始めてきてくる日である。こんな日に根気と注意力を集中しなければならぬ校正作業は、思うようにはかどらない。原簿の調査票の記入・訂正は、女子のアルバイトと二人で共同してやったが、その時にこれらについての要領、注意事項については、充分注意、確認したはずであった。しかし何しろ校正作業は、注意力を必要とする単一作業の繰返しで、しかも数が多いときいているから大変だ。

今までは色々な種類の校正、例えばウン十年前煉瓦造り木造の教室二階の一隅にあった電気評論室(ご記憶の方はお年が判ります)で諸先生の難解な数式を含んだ論文の校正を四苦八苦しながらやっていた若かりし頃が脳裏をかすめる。

しかし自分が校正した原稿がゲラ刷りになること、今までに何度となく体験し、当り前のことだが、コンピュータが決められたフォーマットに従って印字された書類の校正は生れて始めてである。部厚く折り畳まれた用紙の両端のパーフォレーションが物珍らしい。一全然とプリント・アウトされている活字に見とれている間もなく左側パーフォレーションの傍に「マスターエラー」と書かれた文字の連続に度肝を抜かれる。あれだけ丹念に校正したのでどうしたことかと、しばしばボウ然とする。幸いなことにはエラー項目の上には「*」印が付けてあるのを目で判かるが、ミスに記載した原簿の取り出しが大変。年度別学部別に分類されている原簿の山から目的の一枚(たった一枚ですぞ)を捜し出す。やっとミスの原因を捜し出して訂正する。このミスも注意していればすぐ気の付くことだが漫然とやっていた訳ではないが、単純作業の連続か、暑さのため、眠気のせい。今更ながら校正作業の重要性を思い知らされる。

以上日誌の中から教コマを抜萃して作業経過の概要を書きました。これら作業の集大成である名簿完成までの珍談・奇談を次号から順次ご披露しますのでお楽しみに!!

次の方が、新名簿より脱落が判明しましたので、謹んで追加しおわび申し上げます。

記

(敬称略)

271頁 上4行目へ 藤谷良一
住所 〒047 小樽市緑町2-24-15
電話 0134-27-0562
勤務先 富士舗装工業(株)取締役社長
講昭14年卒

285頁 下13行へ 広瀬一雄
住所 〒570 守口市八雲西町2-177
電話 06-992-7243
昭59年電子工学科卒 修士課程在学中

住所訂正 昭28年 武藤良介
112頁 下6行目 〒274以下住所を
〒247 横浜市戸塚区小菅町2381-45
に訂正

計報

大14年	橋本	真吉	59・2・9
大15年	水谷	孝道	58・5・24
昭4年	内田	佑二	58・5・24
昭10年	沢田忠次郎		59・1・2
昭10年	森	武治	58
昭16年	岡本	正彦	58・12・21
昭36年	池田	一光	57・10・28

洛友会の事務を永年やっていただいたの中島さんが3月31日付で応用科学研究所の方へ移られることになりました。永い間会員の方々ともおなじみで、色々とお世話をしていただき、ありがとうございます。その代役を講昭13年卒の竹村 清がやることになりました。よろしくお引き廻しの程お願いいたします。

一月号に掲載する予定の原稿が面紙の都合で、本号に持越しとなりご迷惑をお掛けいたしましたことを、おわび申し上げます。

会報の記事内容・編集方法など色々ご意見・ご希望などを竹村までお申し付けくださるよう、お待ちしております。(竹村記)